

住まい

私記

松山市の小高い丘陵地を上っていくと、グラフィックデザイナー・其田真司さん(47)の自宅がある。家を建てる前に地盤を改良しておかげで、雨や地震に対する安心感が違うという。

ここは山を造成した土地で、半分は盛り土です。以前は周りに家がなくて、もっと眺めがよかったですよ。

2001年の芸予地震で松山は震度5強の揺れに遭いました。当時住んでいた借家は押し入れの中の物が全部外に出してしまうほどで、かなり怖かったです。

守りを固める 8



近くを断層が走っていることも初めて知って、なおかつ盛り土なら地盤を固めないといかんやろう、と。近所でも地盤改良を

したと聞いて、決心しました。ネットで調べて、砕石パイルにたどりの着きました。縦にストロー状の穴を掘り、天然の砕石

▶自宅の前で草取りをする其田さん＝写真上。地盤改良の工事は、機械で穴を掘り、砕石を入れて締め固める＝同下、ハイスピードコーポレーション提供(其田さん宅とは別の現場)。



地盤改良で水はけも良く

を詰め込んで地盤を締め固めるという工事で、現在はハイスピード工法と呼ばれています。液状化にも沈下にも強く、大雨でも地盤が緩まない。さらに、環境に害を及ぼさない、自然工法という点にほれ込みました。

地中にあるのがセメントの棒だと、地震の揺れで壊れる可能性がある。でも、砕石パイルはもともとバラバラに離れているから、多少ずれるだけ。子ども

の頃、牛乳瓶の中に土を入れて割り箸で押したら固くなったのと同じ仕組みで、素人にもわかりやすかったですね。

家は2階建て。基礎をつくる直前、04年7月に2日間かけて地盤改良工事をしました。ミニ戦車みたいな機械で掘り、土地の硬さに合わせて、4センチの穴を15本と、3センチの穴を17本。計32本の細長い穴に石を入れまし

た。猛暑の中、食い入るように見た記憶があります。

いまは技術が進んでもっと安くなったようですが、当時は約100万円が高かった。でも、安心感が全然違います。地震は最初にガツンとくるだけで、あまり揺れない気がします。

一番実感したのは、水はけの良さ。ここは雨が降ると赤い水が流れるような、かなりの粘土質ですが、翌日にはすっかり乾いている。ゲリラ豪雨で隣の家

の排水口から滝のような水が流れ出したときは、心配になって工務店に連絡しましたよ。それが、うちの土地で地下に吸い込まれていったんです。

直下型地震が来たときにどうなるかは、正直なところわかりません。でも地盤については、これ以上の備えはないと思っています。(聞き手・坂本真子)